

令和5年度 史跡古津八幡山 弥生の丘展示館企画展2

**古津八幡山遺跡の石器と鉄器**

令和5年

9月12日(火) ～

令和6年

3月24日(日)

観覧  
無料**企画展の開催にあたって**

弥生時代は日本列島において鉄の利用が始まり、そして次第に普及していく時代です。今から約 2200 年前ごろ（弥生時代前期末から中期初頭）に大陸から鉄器が入ってきます。そして今から約 2100 年前ごろ（弥生時代中期後葉）になると、日本国内でも鍛冶技術、鉄器の製作技術が確認できるようになります。しかし、国内に広く鉄製品が普及していくのは古津八幡山遺跡の主要な時期である弥生時代後期（約 2000 年前）以降のことで、県内の遺跡からも鉄製品が出土するようになります。

古津八幡山遺跡でも、鉄剣や鉄鏃、ヤリガンナなどの鉄器が出土しており、当時の日本海側における鉄器分布の北限域となっています。一方、鉄器の流入によって、集落における石器の種類や量、利用方法などに変化の生じたことが推測されています。

本企画展では、古津八幡山遺跡において昭和 62 年から令和 4 年までの 25 回の発掘調査で出土した石器や鉄器などを展示し、それらの変化や動向などについて探ります。

**企画展で使用する時代・時期名称について**

企画展の中心となるのは、古津八幡山遺跡の弥生時代のムラが営まれた弥生時代後期と終末期で、邪馬台国の女王、卑弥呼が生きた時代と一部重なる時期です。なお、弥生時代終末期については古墳時代早期と呼ぶ場合もあります。

本企画展では、弥生時代を前期、中期、後期、終末期の 4 時期に区分し、さらに後期については前半、後半、末と 3 段階に分けています。実年代については諸説ありますが、弥生時代後期のはじまりは紀元後すぐくらい、古墳時代前期のはじまりは西暦 250 年くらいと推測されています。

## 古津八幡山遺跡の動向と時代・時期名称

※赤字は平成29年～令和4年の調査で見つかった遺構

| 時代     | 北陸南西部編年          | 古墳集成編年 | 新潟シンボジウム編年 | 古津八幡山遺跡                                           |                                                                                    |         |                    |
|--------|------------------|--------|------------|---------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|---------|--------------------|
| 弥生時代中期 | 小松<br>専光寺<br>戸水B |        |            | 環濠                                                | 竪穴建物                                                                               | 掘立柱建物   | 墓                  |
| 1      |                  |        |            | —                                                 | —                                                                                  | —       | —                  |
| 後期前半   | 1群               | V-1群   |            |                                                   |                                                                                    |         |                    |
| 後期     | 2群               | V-2群   | 1期         | 集落の出現                                             |                                                                                    |         | 方形周溝墓              |
| 後期後半   | 3群               | V-3群   |            | 外環濠の掘削                                            | SI03S20<br>SI0804<br>SI802・SI821<br>SI0603<br>SI03S03<br>SI0602<br>SI1307<br>SI728 | 掘立柱建物群？ | SX1005             |
| 200    | 4群               | 2-1群   | 2期         | 環濠の一部埋没<br>⇒一部環濠の再掘削？<br>内環濠掘削？<br>SD03S16・SD1011 | SI03S06<br>SI03N03<br>大型竪穴建物(SI1)<br>SI465                                         |         | SX1006             |
| 弥生時代末期 | 5群               | 2-2群   | 3期         |                                                   |                                                                                    |         | SX1004             |
| 弥生時代早期 | 6群               | 3群     | 4期         | 環濠の一部埋没<br>⇒一部環濠の再掘削？<br>内環濠掘削？<br>SD03S16・SD1011 | SI03S06<br>SI03N03<br>大型竪穴建物(SI1)<br>SI465                                         |         | SZ743<br>(大型方形周溝墓) |
| 弥生時代中期 | 7群               | 4群     | 5期         |                                                   |                                                                                    |         | SZ822？             |
| 弥生時代前期 | 8群               | 5群     | 6期         | 高地性集落の廃絶、平地での集落の出現                                |                                                                                    |         | 前方後方形周溝墓？          |
| 古墳時代前期 | 9群               | 6群     | 7期         |                                                   |                                                                                    |         |                    |
|        | 10群              | 7群     | 8期         |                                                   |                                                                                    |         |                    |
|        |                  | 8群     | 9期         |                                                   |                                                                                    |         |                    |
|        |                  | 9群     | 10期        |                                                   |                                                                                    |         |                    |
|        |                  | 10群    |            |                                                   |                                                                                    |         |                    |

↓古津八幡山古墳  
(古墳中期)

## 石器と鉄器

現在、世界最古の確実な石器は、地上での直立二足歩行生活を行った猿人アウストラロピテクスによる約 260 万年前の石器とされています。

また、人類が使用した最初の鉄器は、地球外から降ってきた隕鉄を加工したもので、古くは紀元前 3000 年頃のものが見つっています。やがて自然界に存在する鉄鉱石や砂鉄から木炭などで還元して人工の鉄をつくりだすようになります。世界最古の人工鉄についてはさまざまな意見がありますが、紀元前 2000 年頃とされています。

鉄器が大陸から日本列島に伝わるのは、今のところ弥生時代前期初頭(紀元前 400 年)頃と考えられています。そして、弥生時代後期(紀元直後から西暦 200 年頃)には利器の中心が石器から鉄器へと移り変わっていきます。

ドイツ帝国の首相ビスマルクの演説から生まれた「鉄は国家なり」の標語に象徴されるように、鉄の役割はその後さらに重要になっていきます。現在も、鉄は私たちの生活の隅々で利用され、世界で最も多く生産、消費されている中心的な金属素材であることを考えると、弥生時代の鉄の導入がいかに大きな出来事であったかが分かります。

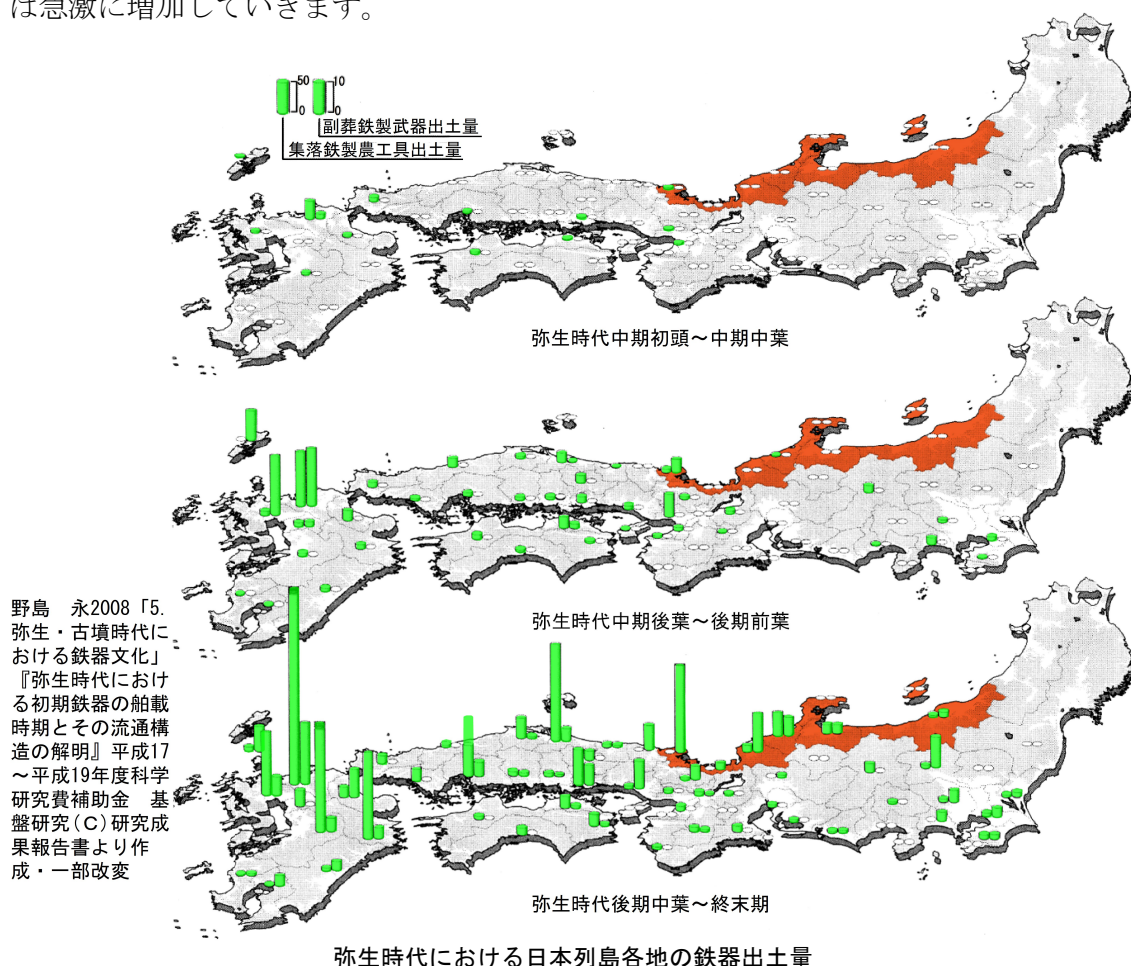
## 弥生時代における石器・鉄器の概要

弥生時代、日本列島は大きな画期を迎えます。水路などの灌漑施設をもつ水田稲作の伝播によって、コメをはじめとする食糧生産が本格的に始まります。さらに、それまで

の石器に加え、青銅器や鉄器という新たな材質の道具を使用するようになります。

人類が手にした最初の道具である石器は、日本列島において旧石器時代、縄文時代、弥生時代と使われ続けますが、利器としての石器使用の伝統は弥生時代をもって基本的に終わりを迎えます。

地域により導入時期や出土量は異なりますが、弥生時代前期末から中期初頭（約 2200 年前）になると九州などで本格的に鉄器の導入がはじまります。ただし、導入期は中国で製作された鉄斧の破片を、石器で擦り切ったり、砥石で研磨して変形させることで再加工するものが主体でした。鉄器は次第に列島各地へも普及し、新潟県では少なくとも弥生時代後期（約 2000 年前）には鉄器を使用していたことが出土品から分かっています。古墳時代（約 1700 年前）になると鉄器の生産や利用は一段と活発となり、出土量は急激に増加していきます。



## 古津八幡山遺跡の概要

古津八幡山遺跡は、昭和 62（1987）年の磐越自動車道のための土取りに伴う調査（第 1 次）で発見されました。標高約 50m の丘陵上にある弥生時代後期・終末期（約 2000 年前～1750 年前）を中心とした大規模な高地性環濠集落で、古墳時代中期（約 1600 年

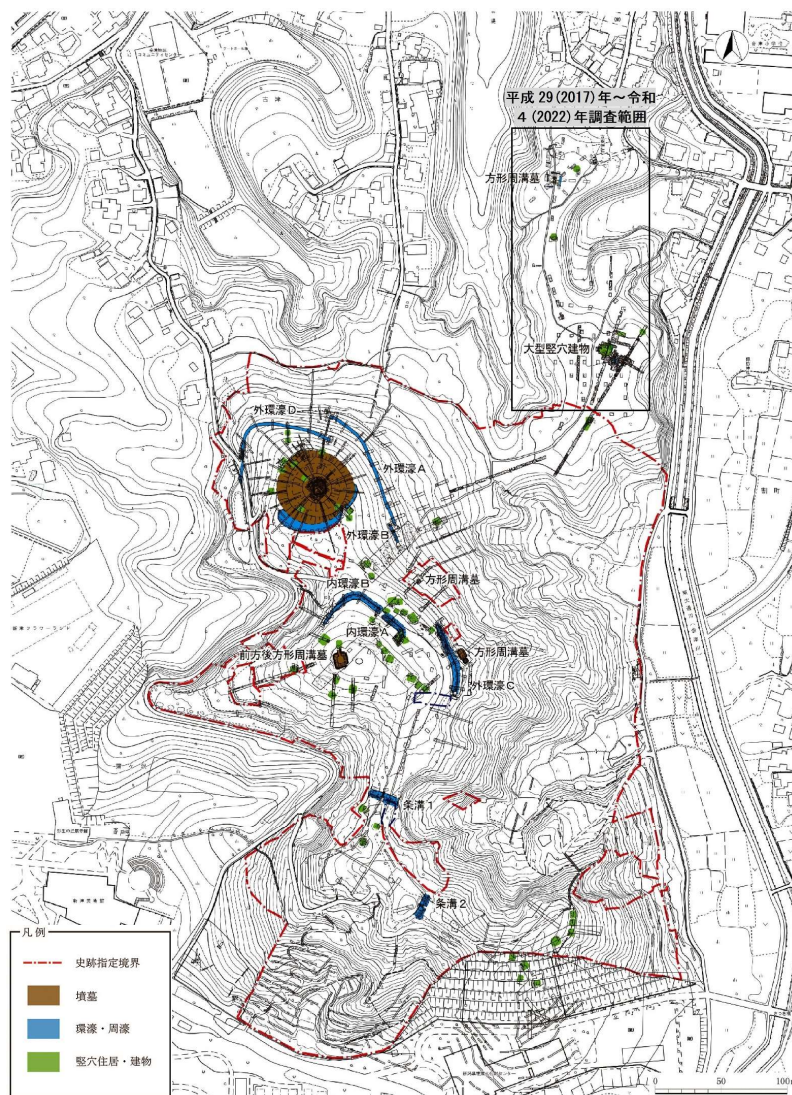


前)頃には県内最大の古墳、古津八幡山古墳が築かれています。

これまでに 25 次に及ぶ発掘調査が行われ、弥生時代の環濠や条溝、竪穴建物 66 棟、方形周溝墓 5 基、前方後方形周溝墓 1 基などが確認されています。また多量の土器や石器のほか、鉄器やガラス玉なども出土しています。

丘陵上という立地や、幅約 2 m・深さ約 2 m の断面が V 字形の濠（環濠・条溝）を周囲にもつなど、中国の歴史書『魏志倭人伝』に書かれた「倭国乱」に関連する戦いに備えた防御的な集落と考えられています。

なお、遺跡北東部の標高約 20～25m の丘陵中腹域において平成 29 年から令和 4 年に行った発掘調査では、遺跡で最大となる大型の竪穴建物 (SI1) や、木槨構造の埋葬施設を含む計 4 基の埋葬施設をもつ大型の方形周溝墓 (SZ743) など、新たな重要な発見がありました。



古津八幡山遺跡遺構平面図および平成 29 年～令和 4 年調査範囲

## 新潟県における弥生時代の石器の概要

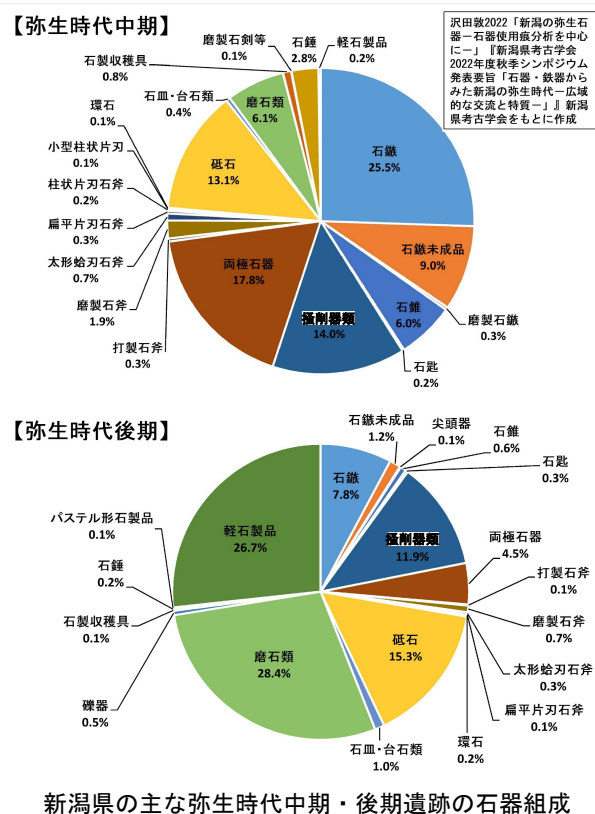
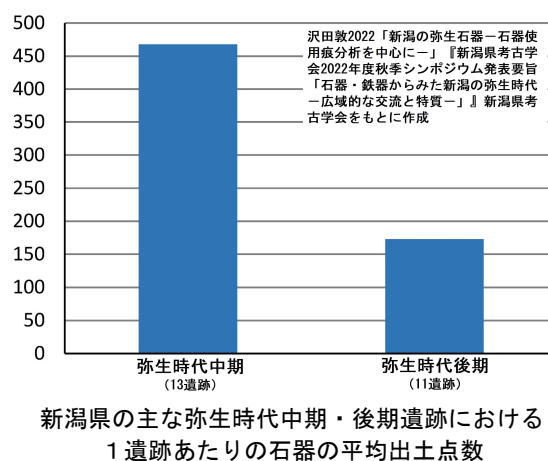
県内において鉄器が普及する前の弥生時代中期（約 2200～2000 年前）と、鉄器が普及し始めた後の弥生時代後期（約 2000～1800 年前）との石器組成を比較すると、弥生時代後期になると石鏃や石錐が大きく減少しており、石斧などの磨製石器や石製収穫具はほとんど確認できなくなっています。また、石器の出土量自体も中期から後期にかけて大幅に減少しています。

砥石は割合としては微増ですが、後期以降、砥石目の細かい仕上砥の増加や、金属器



の刃部先端を研いだ痕跡の見られる砥石、鑿状鉄製工具による加工痕のある砥石、さらには針状鉄製品（穿孔具）との接触による凹みが認められる砥石などが確認されており、鉄器用の砥石が増加した状況が推測されています。また、軽石製品や磨石類の割合も増加しています。

県内において鉄器化が進行する前後にあたる弥生時代中期と後期とで、石器の出土量や組成が大きく変化した状況がうかがえます。木の伐採実験では鉄斧が石斧の 1/3 の時間で伐採したとするデータもありますが、鉄器が当時の社会にもたらしたインパクトは大きかったことでしょう。



## 新潟県における弥生時代の鉄器の概要

北陸西部（石川県・福井県）では、少なくとも弥生時代中期半ば（約 2100 年前）頃までには鉄器が導入されます。最初は鑿<sup>のみ</sup>や鑿<sup>たがね</sup>、鉄斧など木工用工具から導入され、後期中葉（約 1900 年前）になると鋤や鋤先、鎌といった農具も出現するなど、ほぼ全ての利器が鉄器化します。

また、石川県では弥生時代中期の終わりごろ（約 2000 年前）には簡易な鍛冶技術による鉄器製作も行われています。石川県の鉄器や鍛冶技術は全体的に山陰の様相と類似しており、日本海沿岸地域を西側からリレー方式でもたらされた可能性が考えられています。なお、鉄の交換財、対価として玉の生産を行っていた可能性も指摘されています。

新潟県における弥生時代の鉄器は、これまでに 50 点以上出土していますが、弥生時代中期まで確実に遡る事例は今のところありません。見つかっている鉄器はいずれも弥生時代後期（約 2000 年前）以降のもので、県内では弥生時代後期以降、鉄器が普及したと考えられます。

なお、県内の鉄器生産については、確実なもので古墳時代前期の鍛冶遺構がありますが、弥生時代後期にも簡易な鍛冶遺構の可能性が指摘されるものがあり、古くなる可能性もあります。

新潟県における弥生時代の鉄器一覧

| No. | 遺跡名   | 所在地      | 時期（弥生時代）  | 器種・数量 |    |    |   |   |    |   | 備 考 |                                                    |
|-----|-------|----------|-----------|-------|----|----|---|---|----|---|-----|----------------------------------------------------|
|     |       |          |           | 鍬     | 鋤先 | 針状 | 斧 | 剣 | 刀子 | 鉈 |     | 不明・他                                               |
| 1   | 堂の前   | 村上市下新保   | 中期後葉～後期前葉 |       |    |    |   |   |    |   | 1   | 竪穴建物S1318                                          |
| 2   | 山元    | 村上市下助測   | 中期後葉～後期後葉 |       |    |    |   | 1 |    |   |     | 埋設土器内                                              |
| 3   | 砂山    | 村上市岩船町   | 中期後葉～後期後葉 |       |    |    |   |   |    |   | 2   |                                                    |
| 4   | 古津八幡山 | 新潟市秋葉区古津 | 後期前葉～終末期  | 2     |    |    |   | 1 |    | 1 |     | 剣は方形周溝墓（SX1005）、鍬は竪穴建物（S10804・S1728）、鉈は大型竪穴建物（S11） |
| 5   | 経塚山   | 三条市妙法寺   | 後期後葉      |       |    |    | 1 |   |    |   |     | 3号住居址                                              |
| 6   | 奈良崎   | 長岡市島崎    | 後期後葉      |       |    |    |   |   | 1  |   | 4   | 弧状をなす不明品のみ竪穴出土                                     |
| 7   | 姥ヶ入南  | 長岡市島崎    | 後期後葉      |       |    |    | 1 | 1 |    |   |     | 周溝墓主体部                                             |
| 8   | 横山    | 長岡市横山    | 後期後葉      |       |    |    |   |   |    |   | 1   |                                                    |
| 9   | 赤坂    | 長岡市寺泊    | 後期中葉      |       |    |    |   |   |    |   | 5   | 環濠内、1点は鉄鍬か                                         |
| 10  | 西谷    | 刈羽村大塚    | 後期前葉～後期後葉 |       |    |    |   |   |    |   | 1   | 環濠内                                                |
| 11  | 裏山    | 上越市岩木    | 後期後葉      | 3     | 6  |    |   |   |    |   | 2   | 鋤先1点を除き包含層                                         |
| 12  | 下馬場   | 上越市下馬場   | 後期中葉      | 1     |    | 9  |   |   |    |   | 4   | 針状鉄製品は13号竪穴                                        |
| 13  | 斐太    | 妙高市宮内    | 後期後葉      | 2     |    |    |   |   | 1  |   | 4   | 鍬は土坑墓上層、他は竪穴建物                                     |
| 14  | 後生山   | 糸魚川市一の宮  | 後期前葉～後期後葉 |       |    |    |   |   |    |   | 1   | 鉈or鉄鍬、1号住居址                                        |
| 15  | 千種    | 佐渡市金井町   | 後期後葉      |       |    |    |   | 1 |    |   |     |                                                    |

森貴教2019「鉄器の受容と系譜」『新潟県の考古学Ⅲ』新潟県考古学会をもとに作成・一部改変

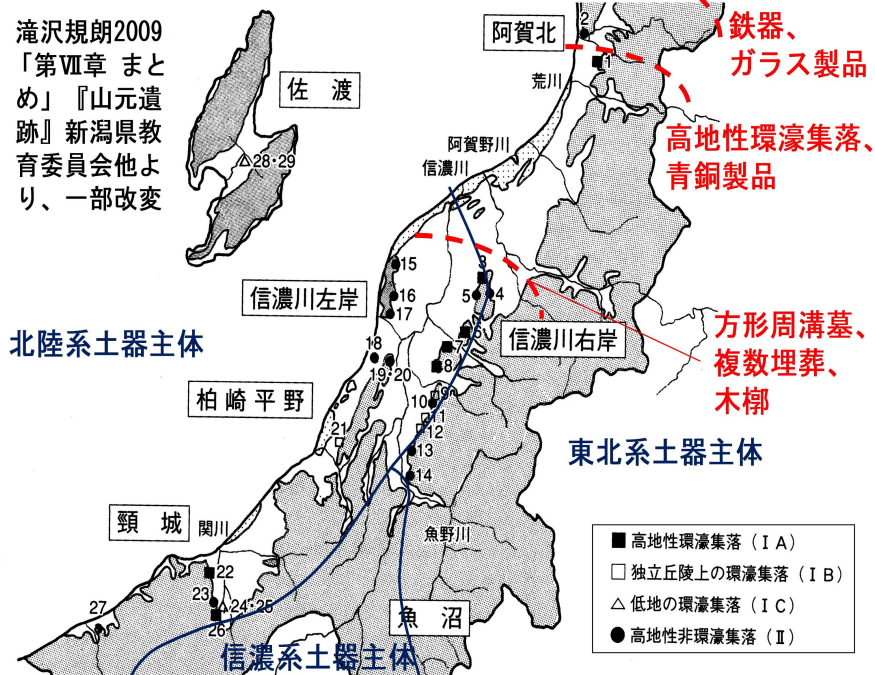
## 新潟県内におけるおもな防御的集落と各要素

弥生時代の中・後期、越後平野では周りに濠を巡らす集落（環濠集落）や、標高の高い場所に営まれる集落（高地性集落）が出現します。これらは防御的集落とも呼ばれ、中国の歴史書『魏志倭人伝』に書かれた日本国内での争いごとである「倭国乱」との関連が指摘されています。

越後平野は日本海側における防御的集落の分布の北限域にあたり、現状では村上市の滝の前遺跡が防御的集落（高地性集落）で最北の遺跡となっています。また、越後平野は防御的集落に限らず、弥生時代のさまざまな要素の日本海側における北限域でもあり、方形周溝墓（最北は新潟市古津八幡山遺跡）や環濠集落（最北は村上市山元遺跡）、青銅製品（最北は村上市山元遺跡）、鉄器（最北は村上市堂の前遺跡）、ガラス製品（最北は村上市堂の前遺跡）などがあげられます。



なお、弥生時代後期後半の県内は、地域によって北陸系土器が主体となる地域と、東北系土器が主体となる地域、信濃系土器が主体となる地域がそれぞれ錯綜しながらも分かれています。このうち、北陸系土器が主体の地域と東北系土器を主体とする地域との境界は、信濃川の河口付近から新津丘陵の古津八幡山遺跡をつないだ辺りになります。



新潟県の主な防御的集落と日本海側北限の各種要素(赤字)

新潟県の主な防御的集落（高地性集落・環濠集落）と各要素

| No | 遺跡名     | 所在地             | 地域区分  | 時期        | 類型  | 周辺との比高 | 調査 | 墓          | 主体の土器群  | 鉄器・青銅器の有無 | ガラス製品の有無 |
|----|---------|-----------------|-------|-----------|-----|--------|----|------------|---------|-----------|----------|
| 1  | 山元      | 村上市(旧神林村)大字下助測  | 阿賀北   | 中期後葉～後期後葉 | IA  | 37m    | 確認 | 環濠外(土坑墓)   | 東北系     | ○         | ○        |
| 2  | 滝ノ前     | 村上市大字岩ヶ崎        | 阿賀北   | 後期後葉～古墳前期 | II? | 約40m   | 本堀 |            | 東北系     |           |          |
| 3  | 古津八幡山   | 新潟市(旧新津市)古津     | 信濃川右岸 | 後期前葉～末葉   | IA  | 約50m   | 確認 | 環濠外(方形周溝墓) | 北陸系・東北系 | ○         | ○        |
| 4  | 大倉山     | 五泉市大字橋下         | 信濃川右岸 | 後期        | II? | 約60m   | 踏査 |            | 北陸系     |           |          |
| 5  | 中店      | 南蒲原郡田上町大字田上     | 信濃川右岸 | 後期        | II? | 約55m   | 本堀 | 集落内?       | 東北系     |           |          |
| 6  | ニツ山山頂   | 三条市大字上保内        | 信濃川右岸 | 後期        | IA? | 約80m   | 踏査 |            | 北陸系     |           |          |
| 7  | 経塚山     | 三条市大字如法寺        | 信濃川右岸 | 後期後葉      | IA  | 約60m   | 本堀 |            | 北陸系     | ○         |          |
| 8  | 大平城     | 見附市鳥切窪町         | 信濃川右岸 | 後期後葉      | IA  | 約80m   | 本堀 | 環濠内(方形台状墓) | 北陸系     |           |          |
| 9  | 高稲場     | 見附市田井町          | 信濃川右岸 | 後期後葉      | IB  | 15～20m | 確認 |            | 北陸系     |           |          |
| 10 | 岩沢      | 見附市名木野町         | 信濃川右岸 | 後期後葉      | II? | 約40m   | 確認 |            | 北陸系     |           |          |
| 11 | 横山      | 長岡市桂町           | 信濃川右岸 | 後期後葉～古墳前期 | IB  | 約10m   | 本堀 | 環濠外(方形周溝墓) | 北陸系     | ○         | ○        |
| 12 | 原山      | 長岡市加津町          | 信濃川右岸 | 後期        | IB? | 約20m   | 踏査 |            | 北陸系     |           | ○        |
| 13 | 堅正寺     | 長岡市御山町          | 信濃川右岸 | 後期        | II? | 約45m   | 踏査 |            | 東北系     |           |          |
| 14 | 阿部山     | 長岡市滝谷町          | 信濃川右岸 | 後期        | II? | 約65m   | 踏査 |            | 東北系     |           |          |
| 15 | 大沢      | 新潟市(旧巻町)大字稲島諏訪  | 信濃川左岸 | 後期前葉～古墳前期 | II  | 約30m   | 本堀 |            | 北陸系     |           |          |
| 16 | 山谷古墳下層  | 新潟市(旧巻町)大字福井    | 信濃川左岸 | 後期前葉～後葉   | II  | 約30m   | 本堀 |            | 北陸系     |           |          |
| 17 | 稲場塚古墳下層 | 新潟市(旧弥彦村)       | 信濃川左岸 | 後期後葉      | II? | 約40m   | 踏査 |            | 北陸系     |           |          |
| 18 | 大平      | 長岡市(旧和島村)大字北野   | 信濃川左岸 | 後期        | II? | 約40m   | 踏査 |            | 北陸系     |           |          |
| 19 | 赤坂      | 長岡市(旧和島村)大字上桐   | 信濃川左岸 | 後期        | II? | 約80m   | 学術 |            | 北陸系     | ○         |          |
| 20 | 姥ヶ入南    | 長岡市(旧和島村)大字島崎   | 信濃川左岸 | 後期        | II  | 30～40m | 本堀 | 円?方形周溝墓    | 北陸系     | ○         |          |
| 21 | 西谷      | 刈羽郡刈羽村大字大塚      | 柏崎平野  | 後期後葉～古墳前期 | IB  | 8m     | 本堀 |            | 北陸系     | ○         |          |
| 22 | 裏山      | 上越市大字岩木         | 頸城    | 後期後葉      | IA  | 約70m   | 本堀 |            | 北陸系     | ○         | ○        |
| 23 | 下馬場     | 上越市大字下馬場        | 頸城    | 後期後葉～古墳前期 | II  | 約40m   | 本堀 |            | 北陸系     | ○         |          |
| 24 | 吹上      | 上越市大字稲荷         | 頸城    | 中期中葉～後葉   | IC  | 0m     | 本堀 |            | 北陸系・信濃系 |           |          |
| 25 | 釜蓋      | 上越市大字           | 頸城    | 後期末葉      | IC  | 0m     | 確認 |            | 北陸系     |           | ○        |
| 26 | 斐太遺跡群   | 妙高市(旧新井市)大字宮内ほか | 頸城    | 後期後葉～古墳前期 | IA  | 約50m   | 本堀 |            | 北陸系     | ○         |          |
| 27 | 後生山     | 糸魚川市            | 頸城    | 後期前葉～後葉   | II  | 約40m   | 本堀 |            | 北陸系     | ○         |          |
| 28 | 平田      | 佐渡市(旧新穂村)       | 佐渡    | 中期中葉～後葉   | IC  | 0m     | 本堀 |            | 北陸系     |           |          |
| 29 | 蔵王      | 佐渡市(旧新穂村)       | 佐渡    | 後期?       | IC  | 0m     | 本堀 |            | 北陸系     | ○         | ○        |

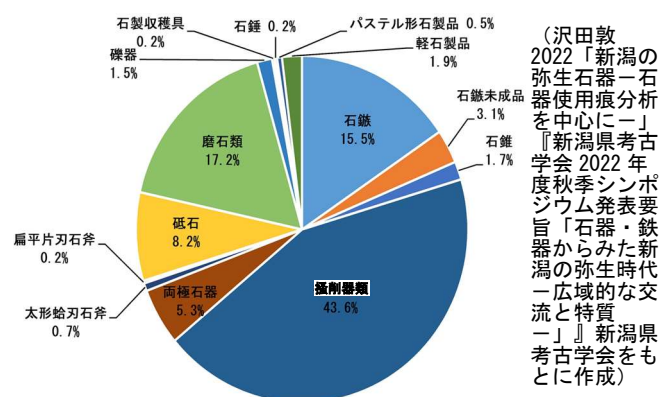
滝沢規朗2009「まとめ」『山元遺跡』新潟県教育委員会ほかをもとに作成・一部改変

## 古津八幡山遺跡の石器・鉄器の概要

古津八幡山遺跡の弥生時代後期の石器組成をみると、掻削器類の比率が最も高く、磨石類、石鏃、砥石と続きます。県内における弥生時代後期の石器組成と比較すると、石鏃や掻削器類の比率が高い一方、軽石製品や砥石の比率が低い傾向がうかがえます。

また、古津八幡山遺跡ではこれまでの発掘調査で弥生時代の鉄器が

計4点出土しています。古い順に見ていくと、弥生時代後期前半の鉄剣1点・鉄鏃1点（方形周溝墓 SX1005・堅穴建物 SI0804）、弥生時代後期後半の鉄鏃1点（堅穴建物 SI728）、弥生時代終末期のヤリガンナ1点（SI1）が出土しています。また、細かい時期は不明ですが、古津八幡山古墳の盛土から出土した刀子状鉄製品も弥生時代の可能性があります。出土点数はそれほど多くありませんが、鉄は再加工ができ、貴重であり廃棄しないため、実際にはもっと多くの鉄器を所有していたと推測されています。



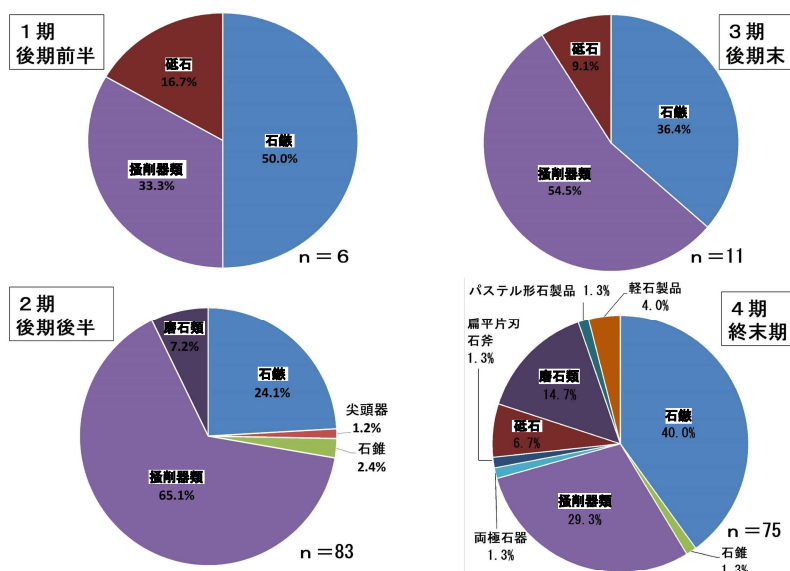
（沢田敦  
2022「新潟の  
弥生石器―石  
器使用痕分析  
を中心に―」  
を『新潟県考古  
学会2022年  
度秋季シンポ  
ジウム発表要  
旨「石器・鉄  
器からみた新  
潟の弥生時代  
―広域的な交  
流と特質―」  
』新潟県考  
古学会をも  
とに作成）

古津八幡山遺跡の弥生時代後期の石器組成

## 古津八幡山遺跡の時期別石器組成

図は、出土土器などによって時期が判別できる古津八幡山遺跡の遺構から出土した石器の時期別石器組成です。

対象とする遺構に限られ、分母の数も多くないため不確定な部分が多いですが、弥生時代後期・終末期をとおして石鏃や掻削器類の比率が比較的高い一方、軽石製品の比率の低いことが推測されます。また、砥石は弥生時代後期、終末期を通じて一定の比率を占めています。なお、砥石の中には鉄器の刃先を研磨した痕跡を残すものがあり、当時の鉄器利用の



古津八幡山遺跡における時期別石器組成  
（時期の分かる遺構出土石器に限る）

一端をうかがうことができます。

ちなみに、弥生時代後期末～終末期になると東北南部を中心に分布するアメリカ式石鏃がほぼ確認できなくなります。この時期、東北系土器がほぼ確認できなくなるものと共通した流れと考えられます。

また、弥生時代後期末～終末期には、東日本では珍しい計4基の複数埋葬施設を有し、そのうちの1基が木槨構造となる大型の方形周溝墓（SZ743）や、6本柱の構造で排水溝をもつ大型の竪穴建物（SI1）が出現するなど、それまでの地域間関係、首長間関係に大きな変化が起こっていたことが推測されます。

## 砥石

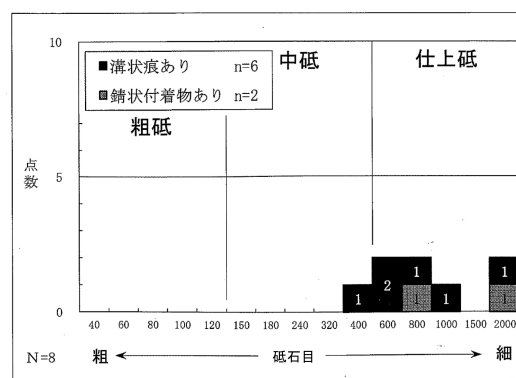
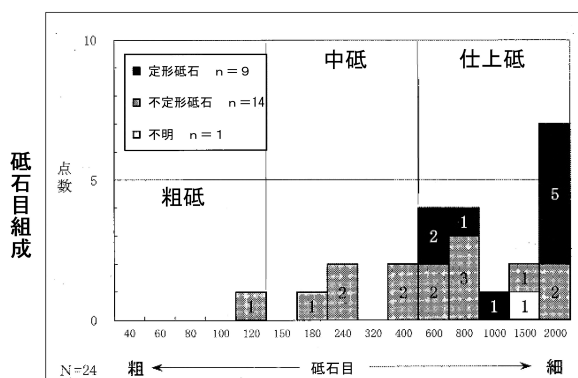
遺跡から出土する石器の中に砥石があります。砥石はおもに石や鉄などを素材とする利器の刃の部分研磨する目的で利用され、特に鉄器は研がないと錆びて使用できなくなってしまいます。砥石は昔も今も形が大きく変わっていないため、私たちにとって見慣れた資料ともいえます。

さて、古津八幡山遺跡では仕上砥が多く出土していますが、時期を追って砥石目が細かい、細粒の仕上げ用砥石の割合が増加する傾向にあります。また、少なくとも弥生時代後期後半頃には直方体状あるいは多角柱状を呈する定形化した砥石があり、弥生時代終末期には小型の定形砥石も確認できます。

なお、古津八幡山遺跡の砥石の中には、仕上砥を中心に鉄器の刃部先端を研いだと推定される細い線状の痕跡が見られる砥石や、鑿状鉄製工具による加工痕との指摘のある砥石が存在します。このような傾向や変化は、古津八幡山遺跡における鉄器化の進展状況と深く関連することが推測されるとともに、当時の鉄器利用の一旦をうかがい知ることができます。



古津八幡山遺跡出土の鉄器研磨と推定される線状痕を残す砥石



森貴教 2020「越後における弥生時代の鉄器化－砥石の分析から－」『新潟考古』第31号 新潟県考古学会より・一部改変

古津八幡山遺跡出土砥石における種類別の砥石目組成（左）と使用痕・付着物（右）



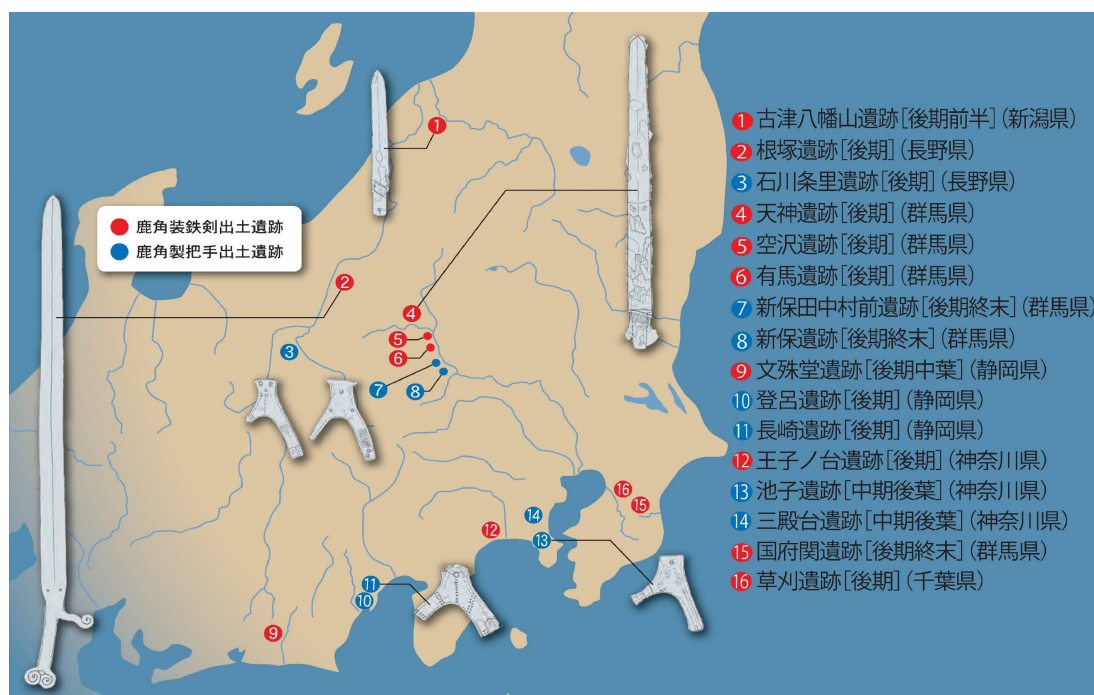
## 古津八幡山遺跡の鉄器

古津八幡山遺跡で確実に弥生時代に位置づけられる鉄器は今のところ4点で、鉄剣1点（後期前半）、鉄鏃2点（後期前半と後期後半）、ヤリガンナ1点（終末期）です。古津八幡山遺跡は、弥生時代の後期前半から終末期までの約200年営まれたムラなので、丘陵上にムラができた当初からムラがなくなる最後まで、鉄器を保有していたことがうかがえます。

鉄剣は方形周溝墓（SX1005）の木棺内に副葬されており、鹿の角の柄が装着された鹿角装鉄剣と考えられています。なお、鉄剣部分は朝鮮半島で生産された可能性も指摘されています。本事例は鹿角装鉄剣が密集する地域から離れており、その由来が注目されます。また、剣の一部には布も付着しており、布巻きもしくは布かけの状態で副葬されていたと推測されます。



方形周溝墓（SX1005）埋葬部



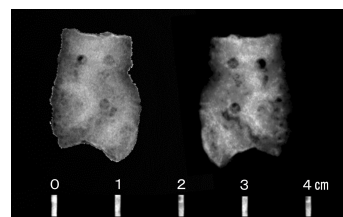
鹿角装鉄剣と鹿角製把手の分布

鉄鏃2点はどちらも竪穴建物から出土しています（SI0804：後期前半・SI728：後期後半）。SI0804の鉄鏃は、下部1か所を穿孔しており、鉄鏃と矢柄とを目釘で固定したものとみられます。細身の形態で、下部は矢柄へ差し込むための茎がつかず（無茎）、両端に下へ鋭く突き出す逆刺をもつ形態のものです。形態から朝鮮半島や北部九州との関連性を指摘する意見もあります。

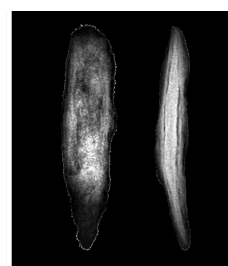


鉄鏃  
(SI0804)

SI728 の鉄鏃は、X線写真で撮影したところ 2 個 1 対の配置で上下 2 列、計 4 つの孔をもつことが確認されました。対の穴が上下 2 列あるのは、先端部が欠損したために再加工してつくり出し、再加工で短くなった分、改めて下列に 2 孔を穿ったためと推測しています。両端が欠損しているため全体の形は不明ですが、無茎で左右両端が S 字にカーブする柳葉形の平面形態の鉄鏃（無茎柳葉式鉄鏃）である可能性があります。



鉄鏃 X 線写真 (SI728 両面)



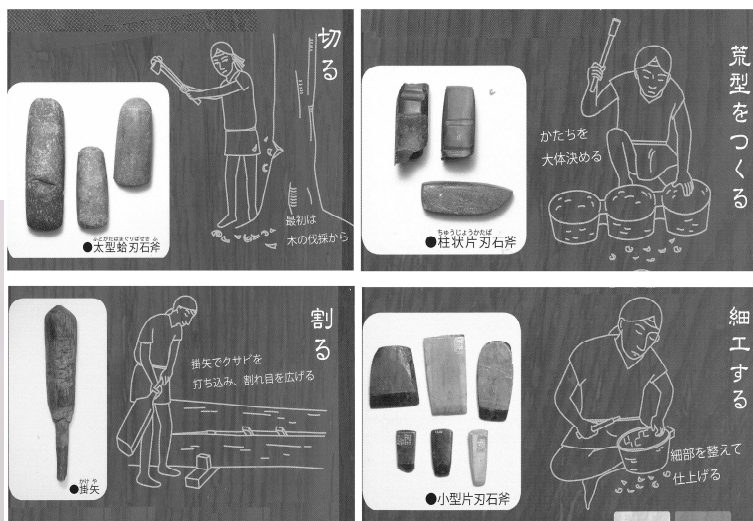
ヤリガンナ X 線写真 (SI1 上・横)

ヤリガンナは、遺跡の中心部である標高約 50m の丘陵頂上部から北東方向に一段下がった標高約 25m の丘陵中覆域において近年見つかった大型の竪穴建物 (SI1) から出土しています。比較的小型のもので、木製品の加工などに使用した可能性が推測されます。

古津八幡山遺跡が営まれた弥生時代後期・終末期を通して石鏃が見られ、木の加工や細工に使用する扁平片刃石斧も出土していることから、鉄鏃と石鏃、ヤリガンナと扁平片刃石斧など、同じ用途でも鉄器と石器とを併用していたことがうかがえます。



古津八幡山遺跡出土の  
扁平片刃石斧（左端）と太形蛤刃石斧



木の加工方法と道具

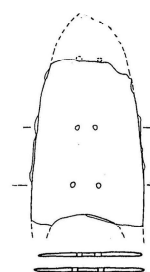
(小松市埋蔵文化財センター2019『こまつ原始・古代のものづくり』より・一部改変)

## ヤリガンナと鉄鏃の推定復元レプリカについて

展示してあるヤリガンナの推定復元レプリカは、ほぼ同じ大きさのヤリガンナが木製の柄に装着された状態で見つかった石川県小松市の八日市地方遺跡の事例（弥生時代中期）を参考に推定復元しました。

八日市地方遺跡のヤリガンナは、柄の上半部を二枚合わせにして鉄部分を挟みこみ、糸を巻き付けて固定した上からテープ状に加工したサクラの樹皮を巻き付けた構造であることが分かっており、今回、古津八幡山遺跡のレプリカも同じ構造で復元しています。

竪穴建物 SI728 出土の鉄鏃は、X線写真により 2 個 1 対の配置で上下 2 列、計 4 つの穿孔が確認されました。熊本県狩尾遺跡出土の弥生



狩尾遺跡出土鉄鏃  
(熊本県教育委員会 1993『狩尾遺跡群』より)

時代後期の鉄鏃の中にも2個1対の配置で、上下3列、計6つの穿孔のある鉄鏃があります。一番上の列を目釘で止めてしまうと先端が短くなり鉄鏃として十分に機能しないため、もとは先端がもっと長かったのが欠けたために改めて先端部をつくり出し、短くなった分、下方に再度2個1対の孔を穿って固定したものと推測されます。同様にSI728の鉄鏃も穿孔をし直したとの推定のもと復元レプリカを作成しました。

## おわりに

弥生時代に日本列島にもたらされた鉄は、石から鉄への素材の変化にとどまらず、その入手方法や生産、流通、権力体制の変化などをもたらし、結果として社会に大きな変化を引き起こす要因となりました。そして弥生時代後期には西日本を中心に各地で政治的、経済的なまとまりが形成され、それぞれに王（首長）が出現し、古津八幡山遺跡のように首長墓が各地でつくられていくこととなります。

さて、古津八幡山遺跡で確実な弥生時代の鉄器は今のところ4点と多くはありませんが、鉄器に加えて、砥石の情報や石器組成の変化、データなどから、弥生時代後期・終末期を通じてある程度の量の鉄器を保有していた状況を改めて推察することができました。また、鉄器と石器とを併用していた実態についても確認することができました。

新潟県は日本海沿岸地域のなかでは山陰や北陸西部などに比べ鉄器の出土量は多くありませんが、日本海から内陸への物資の流通経路にあたるとともに、朝鮮半島南部や北部九州など遠隔地との関連を示唆する鉄器の出土が目立つ地域との指摘もあり、その系譜や流入の実態・背景など、石器の分析と併せて今後の研究が注目されています。

## 【お知らせ】

### 関連講演会

### 「石器・鉄器から探る新潟の弥生文化」

講師 森 貴教 氏（新潟大学准教授）

日時 令和5（2023）年11月26日（日） 13:30～15:30

会場 新潟市文化財センター 研修室

（展示会場とは異なります）

\*オンライン配信も行います

### 展示解説

日時 令和5（2023）年12月3日（日） 14:00～

会場 史跡古津八幡山 弥生の丘展示館

申し込み 不要（直接会場にお越しください）



### ★講演会のお申込み方法★

会場での聴講は申込み不要です。オンライン配信希望の方は右記2次元コードから新潟市オンライン申請システム（e-NIIGATA）でお申し込みください。

<https://gpos.task.asp.net/cu/151009/ea/residents/procedures/apply/1419096c-da2c-4925-bb03-0d61039c1b03/start>

申し込み期間 10月4日（水）～11月19日（日）

